

## 本日の流れ

資料1

### ➤ 講演

## 牛海綿状脳症（BSE）対策の見直しに係る食品健康影響評価（案）の概要

【プリオン専門調査会座長 酒井健夫】

休憩（5分程度）

### ➤ 質疑応答・意見交換

終了 12時

1

## 今後の予定

- 牛海綿状脳症（BSE）対策の見直しに係る食品健康影響評価の審議結果案に関する御意見、情報は、パブリックコメントとしてお寄せください。提出期限は10月10日17時
- ↓
- いただいた御意見、情報について、必要な検討を行った後に評価結果が食品安全委員会で決定されます。
- ↓
- 決定された評価結果は食品安全委員会委員長から厚生労働大臣に通知されます。
- ↓
- 厚生労働省において、評価結果を踏まえ、所要の手続きを進めることとなります。

2

# 食品安全を守るしくみ (リスク分析)

## 食品安全委員会

食べても安全かどうか  
調べて、決める

科学的

中立公正

リスク評価

厚生労働省、農林水産省、  
消費者庁 等

食べても安全なように  
ルールを決めて、監視する

科学的

政策的

国民感情

費用対効果

技術的可能性

リスク管理

## リスクコミュニケーション

消費者、事業者など関係者全員が理解し、納得できるように話し合う

## ■平成23年12月 厚生労働省からの食品健康影響評価の諮問内容(要旨)

### 1 国内措置

#### (1) 検査対象月齢

現行の規制閾値である「20か月齢」から「30か月齢」とした場合のリスクを比較。

#### (2) SRMの範囲

頭部(扁桃を除く)、せき髄及びせき柱について、現行の「全月齢」から「30か月齢超」に変更した場合のリスクを比較。

### 2 国境措置(米国、カナダ、フランス及びオランダ)

#### (1) 月齢制限

現行の規制閾値である「20か月齢」から「30か月齢」とした場合のリスクを比較。

#### (2) SRMの範囲

頭部(扁桃を除く)、せき髄及びせき柱について、現行の「全月齢」から「30か月齢超」に変更した場合のリスクを比較。

※ フランス及びオランダについては、現行の「輸入禁止」から「30か月齢」とした場合のリスクを比較。

### 3 上記1及び2を終えた後、国際的な基準を踏まえてさらに月齢の規制閾値(上記1(1)及び2(1))を引き上げた場合のリスクを評価。

今回の食品健康影響評価(案)の対象

## プリオン専門調査会における説明・議論の経緯

- ① 1月19日 ・諮問事項の説明
- ② 2月27日 ・整理すべき事項のイメージ  
・BSE感染実験の概要①
- ③ 3月23日 ・BSE感染実験に関する文献整理②  
・BSEの発生状況(世界及び日本)①  
・BSE侵入リスク、規制状況等(日本)①  
・「自ら評価」の手法①
- ④ 4月24日 ・BSE感染実験(まとめ)③  
・若齢牛感染実験  
・BSEの発生状況(日本)②  
・BSE侵入リスク、規制状況等(米加仏蘭)②  
・「自ら評価」の手法②  
(日本試行、発生国に適用した場合の課題)

- ⑤ 5月29日 ・米国における4例目のBSEについての報告  
・BSE侵入リスク、規制状況等③  
(5か国横断表によると畜場での管理の確認)  
・vCJD(発生状況及び疫学)①  
・非定型BSE①  
・BSEの発生状況(仏蘭)③
- ⑥ 6月26日 ・vCJD(発生状況及び疫学のまとめ)②  
・ヒト型トランスジェニックマウスやサルの感染実験  
・非定型BSE(まとめ)②  
・BSEの発生状況(米加)③  
・BSEの発生状況の文章によるまとめ  
・仏のBARB  
・侵入リスク・規制状況等④  
(5か国横断表による飼料規制等の確認)  
・諮問に対する回答の返し方の検討

- ⑦ 7月24日
  - ・BSE対策の見直しに係る評価書(案)のたたき台  
(科学的知見の網羅的な整理)
  - ・食品健康影響評価のとりまとめについて
  
- ⑧ 9月 5日
  - ・米国における4例目のBSEについての追加情報の報告
  - ・プリオン評価書(案)のとりまとめ



**【食品安全委員会】**

- 9月10日
  - ・「牛海綿状脳症(BSE)対策の見直し」に関する審議結果の報告と意見・情報の募集について